

## 夜間歩行時の交通事故防止【秋の夜長に備える話題】

# 夜の道路横断はアブナイ！

夜間に歩行者が巻き込まれる交通事故にはある特徴が見られます。

次のイラストでは、道路を横断しようとしている歩行者が事故に遭いそうになっています。

**交通事故を引き起こしてしまう悪い特徴**は一体どの部分にあるのでしょうか？

### 1 服装が暗く、反射材が非着用

事故に遭わないようするためには、自分の存在をなるべく早く、ドライバーに気づいてもらえるようにするのが大切です！夕暮れ時や夜間に外出するときは白色や黄色など周りからよく、**目立つ色の服装**をしましょう！  
また、反射材を着用すれば、着用していない場合に比べて、ドライバーからの発見距離が2倍以上長くなります。反射タスキを着用したり、靴、衣服、カバン、つえ、傘などに**反射材用品**を付けましょう。



### 2 ライトが下向き

交通量の多い市街地などを通行しているときを除き、**ライトを上向き**にしましょう。歩行者に少しでも早く気づくことができれば、危険を回避する余地が生まれます。また、先行車があるときや対向車とすれ違うときにはライトを下向きに切り替えましょう。  
夕暮れ時は**早めにライトを点灯**し、自分の車の存在を知らせるようにしましょう。

### 3 高齢歩行者の特徴

加齢に伴い、一般的に歩行が遅くなり、道路の横断に時間がかかるようになります。特に夜間は足下に注意がいきがちになるなど、周囲の安全確認が不十分になる傾向があります。前方や足下だけを見て横断していると、遠方から接近する車に気付かず、事故に遭ってしまいます。横断前はもちろん、**横断中も周囲の安全確認**をしましょう。

### 4 ドライバーから見て右から左

夜間の高齢歩行者の横断中の死亡事故では、ドライバーから見て右から左への横断時に発生する傾向があります。これは、渡りはじめよりも、横断の途中や渡り終わる間に事故に遭っていることとなります。  
車のライトは右前方を照らす範囲が狭くなっており、ドライバーはライトの照らす範囲に注意がいきがちになることや、高齢者は横断に時間がかかることも原因の一つとして考えられます。  
ドライバーは常に視野を広く保ち、道路の右方向からの横断者の発見に努めましょう。歩行者は周囲に注意しながら、斜め横断はせず速やかに道路を横断しましょう。

### 5 交通ルールを守らない

ドライバーにとって、夜間は交通量が少なくなり、視界が悪くなることから、速度感覚が鈍り、速度超過になりがちです。また、歩行者では、信号無視や横断歩道外横断等の違反で事故に遭うケースが増えます。「交通量が少ないから大丈夫」といった気の緩みが、取り返しのつかない事故に繋がります。

夜間の道路を安全に利用し、事故が起こらないようにするためには歩行者とドライバーが、お互いの存在にいかにか早く気づけるかどうにかかっているということが分かります。

日の入りが早くなり、夜が長くなる秋に向け、夜間に交通事故を引き起こしてしまう悪い特徴をふまえ、夜間どうしても外出しなければならないときは事故に遭わない心構えと準備を整えてからお出かけください。

